

生活時間と畑の力に、もっと価値観を・・・

しかはま自然観察会のらえもん

代表 古高 利男

今、日本で、世界で、「真面目に働き続ければ、やがては安定した成果が得られる」という構図は失われ、ウソでも強気を言い張った者が「勝ち組＝富者」「正義」となりつつあるようだ。この状況を、「低成長、高齢化」時代を生き抜くための未来図として描いてよいのだろうか。

そんなことを思いながら、以下のことを述べてみたい。

#### 1、生活時間が確保されると・・・

1日の時間は、大きく分けると生活・労働・睡眠になり、それぞれ8時間である。この中で拡大傾向は労働時間であり、減少傾向は生活・睡眠時間である。生活時間は、今やあってなきがごとしになりつつある。

生活時間とは、無くてもよいのだろうか。もし充実したらどうなるのだろうか。

生活時間が確保されているからこそ、労働時間の確保・持続・労働内容の充実が図られるのではないだろうか。

「生活時間」について、朝倉むつ子（なんのための労働時間短縮なのか、世界2017年11月号）は次のように述べている。

「そこには、自己啓発や余暇など個人としての時間、家事・育児介護などケアのための時間、地域活動や社会活動のための時間がある。これらの諸活動は個人的なものだが、同時に社会を持続可能なものにするという公共的な性質をもつ。」

生活時間の一番の関心事は、家族が安心してくらせるということではないだろうか。ほっとできる場・安心できる場・いろいろ思案したり話したり出来る場・お腹いっぱい食べられる場は、生きるための基本である。時間に余裕があれば、エコな生活を追求してみる・資源を大切にしようとする・家のメンテナンスに挑戦してみる・子供会や自治会活動にも参加してみるという気持ちが出てくる。何よりも、家を中心とした生活を楽しみながら太陽のエネルギーを存分に利用するライフスタイルを築き上げて行くことだろう。

生活時間の使い方を自分で立案し実行する先には、「分かち与えられる」「共に豊かさ」へ進んでいく未来を描けるのではないだろうか。

生活時間に対する価値観が社会的に醸成され、豊かさを象徴するものであることを広く認知されることを、切に願っている。そうして、どの家庭でも日常として「朝方のある暮らし」「夕方のある暮らし」になることを・・・。

#### 2、畑の力

太陽のエネルギーと土の力が協力しあい、小さな一粒の種を発芽させ、大きな野菜として成長させてくれるフィールドが、畑だ。

畑はスゴイ！何よりも、包容力がある。相手の動作を無言で見守り、失敗は時間をかけ

て待っていてくれる。相手が気が付くまで待っていてくれる。

私は、家から自転車で5分ほどの所に、約100坪ほどの畑を借りている。我が家から排出される生ゴミ・剪定ゴミはすべて引き受けてくれる。家の回りに置いて置けば場所を取りじゃまでしょうがないものも、畑へ持って行くとそれらの存在感はすぐに無くなってしまうから不思議だ。特に、生ゴミについては、ここ40年間は忌み嫌うゴミとして排出したことはない。すべては畑へ投入されているからだ。1日500グラムの生ゴミが出るとしよう。0, 5kg×365日×40年間=7300kgとなる。1年にすれば182, 5kgである。これだけの量が畑に投入され、肥料となり、無肥料・無農薬で野菜を育ててくれているのだ。ゴミとして捨てられ処分されるコストはゼロである。

畑は、人がゴミとして忌み嫌っているものでも、無機質化し土に還元しているのだ。

畑の力は、それだけではない。枝豆を作ろうと思い、苗作りをしたときのことだ。本葉が出そろい成長の良いもの、葉は虫に食われてしまったもの、茎だけになったものと、素人栽培者にとっては菌がゆいばかりである。それでも、せっかく芽を出したのだから捨てるのはもったいないと思い、それぞれの苗を育ててみた。すると、背丈や豆の数などに成長の差はあるが、時間をかければ枝豆としてりっぱに成長することがわかったのだ。土にしっかり植え、太陽を当て、じっくり待てば、同じように成長したのだ。まるで、教育の理念を語っているようだった。また、ミミズの出る場を知り、キャベツに青虫がつき、チョウチョが舞い、トンボが飛び、ジョロウグモが巣を張り、空には野鳥が飛び回っている。様々な生き物たちの出現は、季節や食草を教えてくれる。そうして、野菜を育てることは、様々な生き物も育てていることに気づくのである。

土を耕すことは、自信を耕し、自分だけが中心でないことをわからしめてくれているようだ。ここにも、未来を照射する手がかりがありそうだ。そして、ここにも太陽のエネルギーが顔をだしてくる。

3, 最後になりましたが、のらえもんの活動を本年度も滞りなく推進できましたのは、会員の皆様はもちろんのこと、たくさんの方々や自然そして平穏な社会のおかげでした。

記憶に残るのは、限界集落といわれる土呂部で夏のキャンプを実施したときでした。高齢の方々に大変親切に対応していただき、気持ちよくキャンプ生活を楽しむことができました。それはキャンプ生活者の自主性や規律性を尊重してくれているからでした。場内に注意書きのないことでもわかりました。さらに、ゲンジボタルの鑑賞会では日光茅ボッチの会代表の飯村孝文様に案内して頂き、幻想的な光の乱舞にうっとりしました。

特に、本年度の活動では、田んぼ体験活動―田植え・稲刈り・しめ縄作りと活動報告書作成―ではセブニーイレブン記念財団より助成を受けることができました。また、雪体験であるスキー教室と土呂部のごちそうでは、足立区公益活動げんき応援事業の助成を受けることができました。助成金が活動を力強く推進してくれたことを報告させていただきます。ありがとうございました。

平成30年度 活動報告一覧

回	実施日	活動内容	場所	参加者
1	4月 1 (日) 11時～15時	春の生き物観察と桜見物 カブトムシの幼虫配布 新入生紹介 青空の下で遊ぼう 昼食持参	都市農業公園	大 19 中 2 小 10 幼 2 計 33
2	4月28～30日 2泊3日	古民家宿泊体験 早春の里山散策 雨呼山縦走 野焼き見学 春の星空観察	みなかみ町 藤原 現地集合 森林塾青水連携	大 9 中 0 小 3 幼 2 計 14
3	5月13 (日)	田植え体験 9回目 イチゴ狩り カイコの卵配布と紙芝居 キリンビール工場見学	宅間農園 キリンビール 取手工場 バス利用	大 41 中 2 小 15 幼 5 計 63
4	6月 3 (日)	潮干狩り・砂浜の生き物 講師：福藤 恭司	ふなばし三番 瀬海浜公園 現地集合	大 17 中 1 小 7 幼 3 計 28
5	6月23 (土)	自分のハンコを作ろう 篆刻に挑戦 講師：下村 庸三	鹿浜五色桜小 図工室	大 8 高 1 小 5 幼 1 計 15
6	7月14～16日 2泊3日	第9回 夏キャンプ ホテル鑑賞 魚つかみ、キャンプファイヤー、里山散策	土呂部キャンプ場(ドロブツクル) 現地集合	大 23 高 1 中 1 小 11 幼 6 計 42
7	8月25～26日 1泊2日	夏山登山 避難小屋泊、トイレ無し	日光白根山 現地集合	大 6 小 2 計 8

8	9月 9 (日)	稲刈り体験 8回目 田んぼ遊び、虫取り 野田醤油工場見学	宅間農園 野田醤油工場 バス利用	大 38 中 1 小 18 幼 5 計 62
9	10月 6 (土) 7 (日)	ハゼを釣ろう 川岸の生き物	都市農業公園 荒川河川敷	大 2 小 1 計 3
10	11月10 (土) 11時30分～ 12時30分	新米の販売 田んぼに感謝を込めて 販売者：宅間農園 合計737, 4kg	いきいき館の 駐車場	会員28 団体 4 計 32
11	11月10 (土) 13時30分～ 15時30分	クズの蔓で カゴづくりに挑戦 1回目	荒川河川敷	大 8 小 3 幼 2 計 13
12	12月 8 (土) 11時30分～ 12日30分 昼食 13時30分～ 15時30分	サケの受精卵配布 弁当持参 クズの蔓で カゴづくりに挑戦 2回目	都市農業公園 藤棚の下 荒川河川敷	大 9 小 4 幼 2 計 15
13	12月22 (土) 13時30分～ 14時00分	しめ縄づくり 稲刈りのわらを使って 忘年会	鹿浜五色桜小 図工室 山口宅	大 15 中 1 小 6 計 22
**	12月27 (木) 13時30分～ 15時30分	しめ縄づくり いきいき館学習タイムの ための出前授業	いきいき館	地域の小学3年～ 6年生の 15名
14	1月12～13日 1泊2日	スキー体験11回目 ・ 自分のイメージで滑 ってみよう ・ 冬の良さに気づこう ・ 夜の交流会	菅平ダボスス キー場 菅平プリンス ホテル バス利用	大 13 高 2 中 1 小 6 幼 2 計 24

15	2月 9 (土) 14時～16時	押し花遊び 2回目 どんな葉ができるかな？	鹿浜五色桜小 図工室	大 9 小 3 幼 2 計 14
16	2月23～24日 1泊2日	土呂部のごちそう 3回目 雪の里山体験 かんじき体験、ソリ遊び メイプルウォーター採取 日光茅ポッチの会と連携	日光市栗山町 土呂部 民宿：水芭蕉	大 11 高 1 中 1 小 3 幼 2 計 18
17	3月 2 (土)	サケの稚魚の放流と サケの紙芝居 梅見物	都市農業公園 新芝川	大 11 中 1 小 6 幼 1 計 19

\* 生物教材の配布

次のような生物教材を、希望する小学校・保育園・幼稚園に配布しました。

- カブト虫の幼虫
- カイコの卵
- サケの受精卵

\* のらえもん出前授業

次のような内容で、希望校に出前授業しました。

- サケの一生
- カイコの育ち方
- 草木染め
- しめ縄づくり